

月日留あしとみ文の成學のゆらあれお方若  
て古神若きき答て下分の方を方終て中合  
あふ終て文を後てお方

○江化三己年二月十日南中不流山白洲市申重立  
り高入九月十日行候

高入九月十日

洗文を述るる四民國定を基と分先般存  
思ふ六十組とてあぬるあ價あつる(ま)上納  
冥加つれと 済先をて追て末辰以下元を  
宣政文化を存引難ゆると末て止とて

日用く果て今一際以下世上等一よき振致なり  
これ先述て洗文を由て述て節くまゆ不何出先  
界経り上貴かり果もめて左天然にお陽と出ひ  
成六十分仕進致らる若買と又も其余にお申も  
て(ま)心と危踏を和る乃自く高ひ及ま様にお出  
下物潤は不致ゆにお申お陽におと素と人にお  
て(ま)今時にお死ある多すの自然く言下て方  
く(ま)高ひにお(ま)不右の通る者高ひ及窮局  
(ま)あにぬり洗色個は不致ゆ(ま)止る不價(ま)川下  
(ま)へ手潤(ま)終て身にお申末末辰言下何れ不及時  
お傷(ま)何れに二念十(ま)て五板を町へ大と(ま)た  
信候と基(ま)して高法お定(ま)て善く不右振

申す所先を對し不實なるを處分一己に利欲迷  
ひ他を損失と不厭眼前を利権を貪りぬるもの  
ありし方一平竟たし場合分れり先におのてし  
不實なるを總方あり且大坂と土地者日本に咽首  
言法家く玉座を度々擲しといふ素より  
江戸表に美をて移色り文り大坂と土地者  
年祭品つし江戸表も又大坂者所人其移色  
十分より文り大坂と祭品つしは交り付まハ  
お身は信長と不實なるをいれりしは信長彼  
地寺のり不ありて高人其口中彼の信長其  
者おわらば信長と其口中不實なる地り信長其わ  
遠大別と祭品つし大坂川上元を或るおわらば

掛自殊月寸久木杯お瓶お好曲ありて高人  
諸をその移りしとむ前年とて及河は案分均  
遠人しれ下海  
己二月

以化二己年四月

酒原松高所

尾形

年為輝

音吉

己十一歳

岡所

年為

尾形輝

尾形輝

己十一歳